

1. 評価結果概要表

作成日 平成 19 年 9 月 1 日

【評価実施概要】

事業所番号	3871200139		
法人名	有限会社 エスエイサービス		
事業所名	グループホーム 恵須栄		
所在地	愛媛県西条市大野 3 3 0 - 1 (電 話) 0898-66-0898		
管理者	芝 博文		
評価機関名	愛媛県社会福祉協議会 利用者支援班		
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8-15		
訪問調査日	平成 19 年 8 月 21 日	評価確定日	平成 19 年 10 月 9 日

【情報提供票より】 (平成 19 年 7 月 31 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14 年 3 月 28 日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	18 人	常勤 18 人, 非常勤 0 人, 常勤換算 18 人	

(2) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃 (平均月額)	27,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円
敷 金	有()円 ○ 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有()円 ○ 無	有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	200 円	昼食 300 円
	夕食	300 円	おやつ 200 円
	または1日当たり 1,000 円		

(3) 利用者の概要 (平成 19 年 7 月 31 日事業所記入)

利用者人数	27 名	男性 7 名	女性 20 名
要介護 1	4 名	要介護 2	6 名
要介護 3	6 名	要介護 4	10 名
要介護 5	1 名	要支援 2	0 名
年齢	平均 82 歳	最低 60 歳	最高 97 歳

(4) 他に事業所として指定等を受けている事業及び加算

指定	あり	指定介護予防認知症対応型共同生活介護
指定	あり	指定認知症対応型通所介護
届出	なし	短期利用型共同生活介護
加算	なし	医療連携体制加算

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

水田が残る古くからの住宅地の一角に建てられたホームである。敷地は広く、家庭菜園もある。入り口は格子戸で日本家屋風で落ち着いた感じがする。一階に1ユニット、二階に2ユニットある。一階と二階では居室の造りが大きく違い、利用者の好みに応えられるように配慮されている。庭で開催する観月祭では、芋炊きやのみの市を行い地域の方も大勢参加され交流の場となっている。

ホームには理念である「笑顔」があふれている。利用者の笑顔からは、安心して自分らしく過ごしている様子をうかがう事ができる。そばに寄り添う職員は、それぞれが精一杯利用者の事を考え、笑顔でケアを実践している。

【質向上への取組状況】

▼ 前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目：外部4)
前回の評価改善項目について、階段に滑り止めを付けたり、来訪者にわかりやすいホームの案内図を掲示するなど具体的に取組み改善している。外部評価を職員全員で検討して主体的に取り組んで改善につなげていくまでには至っていない。
▼ 今回の自己評価に対する取組み状況 (関連項目：外部4)
日々のケアの忙しさに追われがちではあるが、職員全体の意識を統一し、日ごろ見落としやすいサービスの点検の機会とし、良質なケアサービス向上の一つの手立てとし具体化していくことが望ましい。
▼ 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組み (関連項目：外部4, 5, 6)
様々な立場のメンバーで構成されており、職員の勤務体制から避難訓練の状況についてなど、具体的な問題を提供して、意見交換を行い改善につなげようとしている。評価結果を公表し明らかになった課題について改善計画作成にも意見を聞くようにしている
▼ 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目：外部7, 8)
月1回定期的に必要書類の報告に合わせて、写真などを添えて暮らしぶりを知らせている。また個々に思いを手紙にして伝えている。家族と共に過ごす機会を増やしてもらえるよう行事に誘っている。健康面や外泊に関しては電話での連絡もしている。運営推進会議のメンバーとして意見を出してもらい運営に活かしている。家族会を年1~2回開催している。来訪時には必ず声かけをして意見を聞くなど、個別に家族と話す機会をつくっている。
▼ 日常生活における地域との連携 (関連項目：外部3)
小学校や保育園とは連携しており、お互いに交流できる機会をもっている。小学校には福祉学習のゲストティーチャーとして出かけている。また顔なじみとなった児童が利用者に便りや作品を持って来訪してくれることもある。運営推進会議を通して地域の方とのつながりもできてきており、自治会へも入りたいと思っている。

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

V. サービスの成果に関する項目

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
 - 各自己評価項目について、「取り組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。
 - 「取り組みの事実」は必ず記入すること。
- (注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名

グループホーム恵須栄

(ユニット名)

栄ユニット

記入者(管理者)

氏 名

芝 博文

評価完了日

19年 7月 24日

(別表第1)

自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) 紙面に記入し、ユニット職員皆に見える所に貼っている。 (外部評価) 設立当初から、家庭的な環境の下で笑顔でその人らしく過ごしてもらうという理念を大切にしているが、地域の中でその人らしく生活していくことをどのように支えていくかということを理念に掲げていない。	※	今まで生活してきた地域との関係をできるだけ継続して生活をしていくにはどのような援助ができるか等、ホームとしての具体的な理念をつくり、実践していくことが求められる。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) 理念があまり把握出来ていない所もあるので、しっかりと理解し、実践に結び付けていく必要有り。 (外部評価) 地域密着型をめざして、笑顔で円満な日々を生き生きと過ごしてもらえるように取り組んでおり、ミーティングやカンファレンスの機会をとらえて話し合っている。		
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	(自己評価) 自分自身が理解できていないので、家族や地域の方に伝えるのも難しい。	※	自分自身がきちんと理念を把握し、地域の方々にも理解して頂けるよう努力する。
2. 地域との支えあい					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 道端で出会った地域の方への挨拶や、行事への呼び掛けを行い、交流を深めていく。		
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 2ヶ月に1回は運営会を行い、意見の交換をし、交流を持っている。祭りや奉仕活動への参加をしています。 (外部評価) 小学校や保育園とは連携しており、お互いに交流できる機会がある。小学校には福祉学習の講師として出かけている。また顔なじみとなった児童が利用者に便りや作品を持って来訪してくれることもある。運営推進会議を通して地域の方とのつながりもできてきており、自治会への加入も検討している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) 地域の高齢者等の暮らしに役立つ事がないかは、あまり話し合いをしていないように思う。	※	介護相談会等を開き、地域の介護に対する悩みを聞き、役立ちたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 評価内容について勉強会で話し合い、改善に努めている。 (外部評価) 前回の評価改善項目について、階段に滑り止めを付けたり、来訪者にわかりやすいホームの案内図を掲示するなど具体的に取組み改善している。自己評価することの意義、外部評価を検討して主体的に取り組んで改善につなげていくまでには至っていない。	※	日々のケアの忙しさに追われがちではあるが、職員全体の意識を統一し、日ごろ見落としやすいサービスの点検の機会とし、良質なケアサービス向上の一つの手立てとし具体化していくことが望ましい。
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 2ヶ月に1回時間を取り、話し合いを行っている。 (外部評価) 様々な立場のメンバーで構成されており、職員の勤務体制から避難訓練の状況についてなど、具体的な問題を提供して、意見交換を行い改善につなげようとしている。評価結果を公表し明らかになった課題について改善計画作成にも意見を聞くようにしている。		
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) 月に1回介護相談員を招き、グループホームのサービスの向上に取り組んでいる。 (外部評価) 月1回訪問の相談員さんを介して、市の取り組みやホームとしての要望など情報交換をしている。デイサービス実施の申請をきっかけに窓口との情報交換が頻繁にできるようになった。		
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) 地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について良く理解できていない。	※	必要な利用者には活用出来るように、自身勉強し支援出来るようにしたい。
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待についてはあまりまだ、学ぶ機会に触れていないので、勉強する必要がある。	※	学ぶ機会を持ち、虐待防止に努める。

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 事業所の特性を踏まえて、出来る事と出来ない事を、はっきりと伝えるようにしている。医療連携においても、ゆっくりと分かるように説明している。		
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 月に相談員を招き、不満、苦情を聞いてもらい、運営推進会議にて外部者へ表せる機会を設けている。		
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	(自己評価) 月ごとに文書に分かりやすく書き記し、写真等も同封し、ありのままの報告をしている。 (外部評価) 月1回定期的に必要書類の報告に合わせて、写真などを添えて暮らしぶりを知らせている。また個々に思いを手紙にして伝えている。家族で共に過ごす機会を増やしてもらえよう行事の案内もしている。健康面や外泊に関しては電話での連絡もしている。		
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 意見箱を設置して、気軽に書けるよう、紙、えんぴつ用意し面会に来られた時、記入してもらっている。 (外部評価) 運営推進会議のメンバーとして意見を出してもらい運営に活かしている。家族会は年1～2回開催している。来訪時には必ず声かけをして意見を聞き、個別に家族と話す機会をつくっている。		
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 管理者が日々の問題や課題をスタッフよりしっかりと聞き、運営者と連絡を取り緊急ミーティング等を全員で行う機会を作っている。		
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 必要に応じて職員の確保への相談し対応している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 各ユニットの職員を固定化し、顔なじみの職員によるケアを心掛けている。 (外部評価) 2階は2ユニットで夜勤が一人という勤務体制なので、両ユニットの利用者と顔馴染みになっておく必要があり、両ユニット間での職員異動は有効と考えている。利用者にはよく話しており引き継ぎを十分にしている。	※	3ユニットあり、どのユニットでも対応できる職員でなければならないので、異動により職員のレベルをアップする必要がある。
5. 人材の育成と支援					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 全職員が研修会等の機会に当るように年度初めに年間研修予定を計画し、研修を受けている。また勉強会での報告の場を作っている。 (外部評価) 休みの日に研修会に参加している職員もいるが、勤務体制に余裕がないため研修に参加することが難しく、勉強会での報告に留まっている。	※	非常勤やパートも含む職員個々の質の確保・向上に向けた育成が大切である。それぞれの立場・経験・習熟度などに応じて段階的に力をつけていくことが望ましい。業務に支障が生じないように十分話し合いをして、ホーム全体で年間計画をたてて実施していくことが求められる。
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 月に1度の市の研修会に参加し、地域のGH職員との交流を図り、情報交換及び、共に悩んだりしている。 (外部評価) グループホーム連絡協議会に加入している。周辺のホームと行事・レクリエーションなどに利用者と共に参加して交流をしている。ブロックのケアマネジャーがネットワークづくりの呼びかけを始めようとしている。	※	地域の同業者でネットワークを組み、形式的な交流ではなく、勉強会や相互評価などを通じて、日々のサービスや職員育成に役立つ実践的な交流や連携をしていくことが、事業所のみでなく地域の福祉力の向上につながると期待する。
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) 管理者やリーダーといった職員にとってまず身近な者が話を聞き、必要であれば運営者に持ちかけ話し合いの場を作っている。		
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) 常に管理者との情報交換のやりとりをし、職員の取り組み内容を把握し、評価するべき所はきちんと行い個別面談等でも職員の気持ちの把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 初期の面接から本人と接する機会を作り、コミュニケーションをとり、まずは信頼関係から作るように心掛けている。		
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 家族の方と良く話を聴き、困っていること、不安なことを受け止めるようにしている。		
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 利用者、家族が訴えている事を良く聴き、優先しなければいけない支援をケアマネ、管理者と話を進めている。		
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) 見学に来て実際にその場の雰囲気を掴んで頂く等、そこでのコミュニケーションを大切にしている。		
			(外部評価) 利用開始前に管理者（職員）が自宅を訪問し、その方の暮らしぶりを感じ取りながら、顔を合わせて話しをしている。家族・本人に見学に来てもらって一緒に過ごして少しずつ馴染んでもらうようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 皆で一緒に助け合い一緒に頑張るように心掛けている。又出来る事はして頂くよう見守っている。分からないことは聞いて学んでもいる。		
			(外部評価) 職員は常に利用者を頼りにして語りかけ、料理の仕方を教えてもらったり、季節の行事を教えてもらったりしている。感謝の気持ちをこめて「ありがとう」という言葉をかえしている。		
28		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面会時等には家族と話を密にし、本人の事をより分かるような努力をしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) 本人の意見、家族の意見をよく聞き話し合いを行い、より良い関係を築くよう努めている。		
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) イベントには馴染みの方々を招待し、関係が途切れないようにしている。出来る限り馴染みの場所へも連れて行けるよう配慮している。		
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) 利用者間に職員が入り仲を取り持つようにしている。又、3ユニット合同の行事やドライブ等に声掛けし、交流を持って頂く。		
32		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) サービスが終了してしまうと、どうしても途切れがちになるが、たまにどこかで会うと、状況等を聞いたり、世間話をしたり、顔なじみにはなっている。		

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握

33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 利用者一人一人の暮らし方を、様々な角度から情報を集め、本人本位のサービスを心掛けている。		
			(外部評価) 暮らし方シートに生活面での要望を書いてもらっているが、職員の気づきに任されており、共有してケアの向上につなげるまでに至っていない。	※	職員一人ひとりが日々のかかわりの中で聞き取ったり、利用者同士の会話の中から気づいたことなどを気づきノートや日誌に記入し形にしておき、職員全員が話し合って共有し、同じ方向性をもったケアができるように取り組むことが望ましい。
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 家族の方、係りつけ医、ケアマネに生活スタイルを聞き、ホームでのケアに役立てている。		
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) 見守り等、日常の生活にて、関わり把握できるように努めている。		

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) ケアマネ中心に家族、本人を交えて希望に合った介護計画を立案する。 (外部評価) 職員ごとに担当の利用者を決めており、家族や本人の希望を把握して課題を記入した報告書を参考にしながら介護計画を作成している。	※	地域でその人らしく暮らしていくために、サービスや介助項目を羅列したものでなく、本人の意向を十分取り入れ、家族や関係者と本人本意で話し合い、職員全員の気づき、意見、要望を反映した介護計画の作成が求められる。
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) 処遇会にて話し合い、対応が難しい変化が生じた場合、家族、本人と共に希望に応じた計画を作成している。 (外部評価) 月2回に分けて処遇会議を実施し、療養シート、暮らし方シートを利用して評価検討し、課題順位に従って介護計画の見直しを行っている。今後計画的にセンター方式に切り替える予定である。		
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日中の出来事をありのままに記入し、介護計画の見直しを処遇会にて話し合い、見直している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) 個々の事情をしっかりと聞き、通院への送迎等、出来る限りの協力をさせて頂いている。 (外部評価) デイサービス、ショートステイを申請している。本人や家族の要望にそって、病院受診などの送迎、外泊の支援などを実施している。		

自己評価	外部評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 個々の主張をしっかりと聞き、必要に応じた機関の人材等をホームへ招いて対応している。		
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 本人の希望を、家族、ケアマネと話し合い、他のサービスを利用する支援を行っている。		
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 現在のところ具体的な活用例はない。	※	これからのニーズに対応できるように活用出来る知識を身につけておく。
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) かかりつけ医は決まっているが、利用者の希望を尊重し、納得が得られた医療機関を受診している。 (外部評価) 疾病に関しては、入居前のかかりつけ医を主治医としている。普段の健康管理は協力医療機関の医師の往診が得られる仕組みがあり、定期的には月1回の往診がある。外部評価で訪問した日にも医師と看護師の往診があり、注射、投薬をされていた。利用者は顔馴染みで医師との会話を楽しみにしている。		
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) 近くの神経内科と連携をとっているが、一部の利用者が受診している。	※	気軽に相談できる、精神科医のバックアップを頂ける様に取り組んでいく。
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) 看護師を各ユニットに配置する事で互いに連携し、相談している。		
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 定期的に入院先に訪問し、情報交換、相談に努めている。		

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は 取組みを期待 したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) 本人、家族、係りつけ医と協同してその段階で適切な方法を模索し、提案している。 (外部評価) 運営方針として、重度化や終末期の方には対応できないことを決めており、方針を入居時から家族ともよく話ししており了解を得ている。なお日常の健康管理や急変時には対応できるよう、医療機関と連携している。		
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) 利用者の体調に留意し、今後の変化について家族も交え話し合っている。		
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) 入所先、退所先としっかりと情報交換を行い、スムーズに入所できるよう支援している。		

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援

(1)一人ひとりの尊重

50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価) 一人一人の誇りには充分注意している。個人情報も気をつけて対応している。 (外部評価) 職員は利用者を人生の先輩として対応している。トイレ誘導は他の利用者に気づかれないようさりげなく、車いすからの移動など外から見えないようにカーテンで目隠しするなど工夫をしている。記録などはむやみに見られないよう適切に管理している。	※	今後も個人情報の取り扱いには充分注意していく。
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) 希望がなるべく通るように配慮している。しかし納得が難しい場面も多々ある。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) どうしても職員の都合になり、利用者の思い通りにならない事もある。 (外部評価) 昼食前の時間であったが、外へ行きたいという利用者の意向にそって、散歩に出かけていた。食事の時間に少し遅れたが、戻ってから機嫌よく皆と食事を摂っていた。食事のペースはそれぞれ違っているが、職員は急いで片付けるのではなく話をしながら寄り添って過ごしていた。	※	一人一人の生活リズムをもう一度考える。ゆったりとした気持ちで、希望に添える支援を行う。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) 定期的に本人の望む理容、美容に行ける様支援し、一緒に服を選んだり、髪を梳かしたりしている。		
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 料理の下ごしらえや片付けを共に行っている。昼食も一緒に食べています。 (外部評価) 家族のこと、献立のこと、食材のこと、季節のことなど一人ひとりの興味を引き出す声かけをしながら、側に寄り添って、食べやすく食器の位置を変えたり、それとなく食べこぼしを片付けたり、楽しく食事ができるよう支援している。		
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) 特に疾患のない方には、自己管理していただいている。		
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) 排泄チェック表の記入をし、一人一人の排泄リズムに合わせて、トイレ誘導を行っている。		
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) 曜日、時間帯が決まってしまう。 (外部評価) バイタルチェックの結果で入れないこともあるが、比較的スムーズに入浴している。車いすの方が多いが、座位を保つことができる方がほとんどなので、職員二人で介助して、ゆっくり浴槽に入ってもらっている。	※	職員の都合ではなく、一人一人の希望に添った支援をして行きたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) 疲労や傾眠状態を観察し、必要に応じて、各居室にて休息を取ってもらっている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) 個人の出来る事を尊重し、将棋、家事援助、散歩等行っている。 (外部評価) 掃除や洗濯物たたみなどできる家事を一緒にしてもらい「ありがとう」と感謝の気持ちを口に出して伝えている。花の世話を楽しみにしている方、将棋が得意な方など、それぞれの楽しみごとの支援をしている。		
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 買い物を楽しめる人は本人の希望に応じて、買い物に出掛けている。		
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) 訴えのあまり無い方は、どうしても外出機会が少ない。 (外部評価) 日常的に近くの神社へ散歩している。近所に商店がないので、買い物に行きたい場合は一緒に車で出かけている。口に出さない方にも何かしらサインがあると認識し、察して外出に誘うなどしている。	※	気持ちを汲み取り、出掛けられるよう支援して行きたい。
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) ご家族様がたまに面会に来られたら、スムーズに外出等できるように支援している。		
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 利用者の希望により、電話や手紙の支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) 気軽に訪問できるように、家族や馴染みの人との空間を作るようにしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 拘束に関しては行っていない。しかし言葉による拘束は利用者の安全面を考える上で、やむを得ず出る事がある。		
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 日中は全て開放し、離園に備え、所在確認、声掛け、必要に応じ外出対応している。 (外部評価) 鍵は全くかけておらず、外へ出られる居室もある。ベランダの非常階段がオープンになっているので十分注意している。利用者の意向を理解しており、外出には必ず付き添っている。なお、バリアフリーでないところがあちこちにある為、車いすの方は自分で外出するのは難しい。		
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) 利用者のストレス、不穏に繋がらないように、所在の安全確認を行っている。		
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 利用者の状態を良く把握し、状況に応じて対応している。		
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) もう少し、リスクマネジメントについて職員間で話し合い共有しなければならない。	※	緊急時の対応等を勉強家にて話し合っていく。
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) 訓練は行っているが、実際に対応ができるかどうか不安材料もある。	※	繰り返しの訓練により、冷静な判断、対応が出来るようにしていく。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 緊急時の連絡網を作成し、避難訓練を行っている。 (外部評価) 利用者と共に避難訓練をして様々な問題点を把握している。次回は地域の方の協力のもと行う予定にしている。消火栓を自治会で設置してくれる運びにもなっている。	※	不安で動けなくなる利用者への配慮と対応を職員全員で話し合っておくとスムーズに進行できると思われる。特に夜間時については検討を重ね、運営会議を通して地域への協力体制を要望し、地域の連絡網を作成し対応していくことが求められる。
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	(自己評価) 入所時に家族に説明し、理解を求めている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 普段の健康状態を把握しておき、異変に気付けば、速やかに対応している。		
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬剤師や薬の説明書等は皆で情報を共有して確認している。		
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 食事中に繊維品をを取り入れたり、腸に優しいものを摂取して頂いたり工夫している。		
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 毎食後に職員の付き添いにて口腔ケアを行っている。		
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事量を個々にチェックし、その都度その方の状態に応じた支援をしている。 (外部評価) 利用者の状態によって、刻み食にしたり、好みによって調理の工夫をし、食べやすくして量やバランスに注意している。摂取量については食事、水分共に日誌に記入して管理している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	(自己評価) 研修等に出て、出来る限りの予防を行っている。水周りの清潔や食器類の消毒等を行っている。		
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) マスク、手洗い、うがい、消毒スプレー使用にて衛生管理に注意している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) 建物の構造が少しわかりづらい為に、案内板を作成している。		
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 季節に応じて壁画作りをしている。中庭にて草花を植え、彩りよくしている。 (外部評価) 季節の花を飾ったり、写真や手作りの作品を壁に貼るなどして和やかな雰囲気をつくり、それぞれにお気に入りの場所を確保している。		
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 食事テーブルの配置や、畳スペース、ソファの設置をし、それぞれ思い思いに過ごされている。		
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 利用者が普段使用していた物を持ってきて頂き、不穩の軽減に努めている。 (外部評価) 居室は場所によって作りが違っているが、畳を敷くなど利用者が気に入るように工夫しており、それぞれの利用者ごとの個性的な過ごし方が見受けられる。	※	ドアの上半分が透明ガラスで外から見通せるので、レースを張るなど工夫してプライバシーを確保し、安心して過ごせる居場所とする取り組みを期待する。また車いすの方も自分で出入りし易いように手前に引くドアを開閉しやすいものに換えるなどの工夫が求められる。

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) 利用者の体調にも留意し、温度、湿度を適正に保つ。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) ところどころに手すり等を設置し、使用して歩行して頂く等支援している。		
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) 職員が行ってしまうほうが時間の短縮に繋がると思い、つつい手を出しすぎてしまう時がある。	※	混乱や失敗を防ぐさりげないフォローを行い、ゆったりとした気持ちで行動を見守って行きたい。
87		○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) 四季の花々を植え、ベンチを設置した談話スペース、家庭菜園を作っている。		

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	(自己 評価) 1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの 4 ほとんど掴んでいない	9名の共同生活の中で、職員がバタバタとしている中、全ての利用者の意向を掴んでいくことの難しさを感じている。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	(自己 評価) 1 毎日ある ②数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	せめて食事や、お茶の時間等は、利用者と共にゆったりとした時間を過ごすように配慮している。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	(自己 評価) 1 ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	起床、就寝、余暇時間等、1人1人のペースを大切にしている。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	(自己 評価) 1 ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	得意な事を役割としてやって頂き、「頼りにされている」と感じられるよう支援し、出来たときには、生き生きとした表情がうかがえるときはある。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	(自己 評価) 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	買い物や散歩など職員が付き添い外出する事は出来ているが、自ら外へ出るときには、安全性を考えると制限せざるを得ない時がある。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	(自己 評価) 1 ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	睡眠、排泄、食事摂取状況の観察に努め、バイタルチェックを行い、一人一人の健康管理をしている。
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	(自己 評価) 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	様々な形の支援をして行きたいが、日々の業務に追われ、要望に応じられない時がある。私達自身で業務時間の工夫が必要と感じている。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができていく	(自己 評価) 1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない	ご家族の面会時には利用者の日々の様子や健康状態等話し、家族の希望を聞いている。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	(自己 評価) 1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 ③たまに 4 ほとんどない	地域の小学校や保育所との交流はあるが、近所の方が日々気軽に訪ねて来られる雰囲気作りをして行きたい。

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	1 大いに増えている (自己 ②少しずつ増えている 評価) 3 あまり増えていない 4 全くいない	運営会を幾度となくこなしていくうちに、ご家族様等の積極的な意見も増加し、少しずつ理解者の増加に繋がっている。
98	職員は、活き活きと働けている	1 ほぼ全ての職員が (自己 2 職員の2/3くらいが 評価) ③職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	ストレス解消等の工夫がもう少し必要だと思う。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての利用者が (自己 ②利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	色々と協力的な利用者の方が多く、満足とまではいえないと思われるが、多少は納得されてるのではないだろうかと感じている。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての家族等が (自己 ②家族等の2/3くらいが 評価) 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	度々感謝の言葉をおっしゃって頂いております。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

利用者、職員との一体感を出せるように努力している。共同生活の中での役割分担を、利用者個々の性格や身体の状態に合わせて、職員が見つけるよう努力して、利用者の「居場所」作りには特に力を入れている。私たち職員は利用者の方々の住まいでお手伝いをさせて頂いているという感謝の気持ちを持って。

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目
(評価項目の構成)

Ⅰ.理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

Ⅲ.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

Ⅳ.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

Ⅴ.サービスの成果に関する項目

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
“愛媛県地域密着型サービス評価”

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
- 各自己評価項目について、「取り組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。
- 「取り組みの事実」は必ず記入すること。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名

グループホーム恵須栄

(ユニット名)

恵ユニット

記入者(管理者)

氏 名

芝 博文

評価完了日

19年 7月 20日

(別表第1)

自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) 作成している。家庭的な事の基本として皆で仲良く生活していく。	※	誰にでも解り易い理念を、現状を踏まえて作って行きたい。
			(外部評価) 設立当初から、家庭的な環境の下で笑顔でその人らしく過ごしてもらうという理念を大切にしているが、地域の中でその人らしく生活していくことをどのように支えていくかということを理念に掲げていない。	※	今まで生活してきた地域との関係をできるだけ継続して生活をしていくにはどのような援助ができるか等、ホームとしての具体的な理念をつくり、実践していくことが求められる。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) 毎月の勉強会として管理者と職員は意見交換をし、前向きに進み、取り組んでいる。		
			(外部評価) 地域密着型をめざして、笑顔で円満な日々を生き生きと過ごしてもらえるように取り組んでおり、ミーティングやカンファレンスの機会をとらえて話し合っている。		
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	(自己評価) 地域の人達、家族と一緒に話し合いをしたり、行事等でも招き、意見交換を行っている。	※	もっとより恵須栄というホームを理解して頂くよう交流を深めていく。
2. 地域との支えあい					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 隣近所の人達と朝夕の挨拶と、色々と気さくに話をするように努めている。		
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 地元学校との交流や地方祭の参加を行っています。	※	もう少し幅広く交流できるように工夫していく。
			(外部評価) 小学校や保育園とは連携しており、お互いに交流できる機会がある。小学校には福祉学習の講師として出かけている。また顔なじみとなった児童が利用者に便りや作品を持って来訪してくれることもある。運営推進会議を通して地域の方とのつながりもできてきており、自治会への加入も検討している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) 知人のボランティアさんなど声掛けし、訪問して頂いている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 狙いは理解しているが、自己評価の質問の意義等に関しては難しく思い、理解に乏しいところがある。 (外部評価) 前回の評価改善項目について、階段に滑り止めを付けたり、来訪者にわかりやすいホームの案内図を掲示するなど具体的に取り組み改善している。自己評価することの意義、外部評価を検討して主体的に取り組んで改善につなげていくまでには至っていない。	※ ※	評価全体を理解し、質の向上を高めたい。 日々のケアの忙しさに追われがちではあるが、職員全体の意識を統一し、日ごろ見落としやすいサービスの点検の機会とし、良質なケアサービス向上の一つの手立てとし具体化していくことが望ましい。
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議に出席していないので、雰囲気はわからないが、結果報告は聞いている。 (外部評価) 様々な立場のメンバーで構成されており、職員の勤務体制から避難訓練の状況についてなど、具体的な問題を提供して、意見交換を行い改善につなげようとしている。評価結果を公表し明らかになった課題について改善計画作成にも意見を聞くようにしている。		
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) 介護相談員の方やケアマネと接し、お話などを聞き、ケアに役立てている。 (外部評価) 月1回訪問の相談員さんを介して、市の取り組みやホームとしての要望など情報交換をしている。デイサービス実施の申請をきっかけに窓口との情報交換が頻繁にできるようになった。		
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) 権利擁護に関する制度が理解できていない。	※	制度の理解と勉強
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見逃されることがないよう注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 事業所内では言葉掛け等に気をつける等職員間で意見交換をしている。職員自身もストレス等貯めないようにゆとりを持って接している。	※	研修会への参加。自己研鑽

自己評価	外部評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 事業所の特性を踏まえて、出来る事と出来ない事をはっきりと伝えるようにしている。医療連携においても、ゆっくりと解るように説明している。		
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 職員が相談を受けるか、解決できない場合は管理者や、月1回介護相談員へ相談している。		
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	(自己評価) 毎月末に利用者の家族様へ生活状態等、お手紙にて知らせている。 (外部評価) 月1回定期的に必要書類の報告に合わせて、写真などを添えて暮らしぶりを知らせている。また個々に思いを手紙にして伝えている。家族で共に過ごす機会を増やしてもらえよう行事の案内もしている。健康面や外泊に関しては電話での連絡もしている。		
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 面会時、家族の意見や不満を聞き処遇会や勉強会でも話し合っている。 (外部評価) 運営推進会議のメンバーとして意見を出してもらい運営に活かしている。家族会は年1～2回開催している。来訪時には必ず声かけをして意見を聞き、個別に家族と話す機会をつくっている。	※	もう少しご家族様が意見を気軽に出来る方法を考えていく。
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 管理者が皆の意見を聞き、運営者と連絡を取り、反映できるように努めている。		
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 前もって解っているときには、事前連絡により話し合いや勤務調整が出来ている。緊急の場合は連絡網にて対応できる体制をとっている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 職員の異動で利用者の不安が見えますが、出来る限り不安の無いよう、気遣い、気分が変わるように努めている。 (外部評価) 2階は2ユニットで夜勤が一人という勤務体制なので、両ユニットの利用者と顔馴染みになっておく必要があり、両ユニット間での職員異動は有効と考えている。利用者にはよく話しており引き継ぎを十分にしている。		
5. 人材の育成と支援					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 全職員が研修会等の機会に当るように年度初めに年間研修予定を計画し、研修を受けているまた勉強会での報告の場を作っている。 (外部評価) 休みの日に研修会に参加している職員もいるが、勤務体制に余裕がないため研修に参加することが難しく、勉強会での報告に留まっている。	※	非常勤やパートも含む職員個々の質の確保・向上に向けた育成が大切である。それぞれの立場・経験・習熟度などに応じて段階的に力をつけていくことが望ましい。業務に支障が生じないように十分話し合いをして、ホーム全体で年間計画をたてて実施していくことが求められる。
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 月に1度の市の研修会に参加し、地域のGH職員との交流を図り、情報交換及び、共に学んだりしている。 (外部評価) グループホーム連絡協議会に加入している。周辺のホームと行事・レクリエーションなどに利用者と共に参加して交流をしている。ブロックのケアマネジャーがネットワークづくりの呼びかけを始めようとしている。	※	地域の同業者でネットワークを組み、形式的な交流ではなく、勉強会や相互評価などを通じて、日々のサービスや職員育成に役立つ実践的な交流や連携をしていくことが、事業所のみでなく地域の福祉力の向上につながると期待する。
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) 管理者やリーダーといった職員にとってまず身近な者が話を聞き、必要であれば運営者に持ちかけ話し合いの場を作っている。		
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) 常に管理者との情報交換のやりとりをし、職員の取り組み内容を把握し、評価すべき所は、きちんと行い個別面談等でも職員の気持ちの把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 見学に来て頂き、お話される雰囲気を持つようにしている。		
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 見学に来て頂き、お話される雰囲気を持つようにしている。		
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 利用者の方の情報収集に努め、より良いサービスを提供できるように、他の職員、ケアマネ管理者を交え話し合いをしている。		
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) 早く雰囲気になじめるように家族や関りある人に相談してケアしている。 (外部評価) 利用開始前に管理者（職員）が自宅を訪問し、その方の暮らしぶりを感じ取りながら、顔を合わせて話しをしている。家族・本人に見学に来てもらって一緒に過ごして少しずつ馴染んでもらうようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 人生の先輩、経験者として尊重し、お互い支えあい、家族のように信頼関係を築くように努力している。 (外部評価) 職員は常に利用者を頼りにして語りかけ、料理の仕方を教えてもらったり、季節の行事を教えてもらったりしている。感謝の気持ちをこめて「ありがとう」という言葉をかえしている。		
28		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族との交流を深める努力はしているが、喜怒哀楽を共にする程の関係は築けていない。	※	家族とホームがより一層歩み寄り、話し合いをして行きたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) 情報を提供してもらいながら、より良いサービスが提供できるようにケアを行っている。		
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 電話や、本人の思い出のある故郷や場所へ行ける範囲で連れて行ってあげる。		
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) 利用者同士仲の良い人と悪い人もあるが、皆さんが仲良く支えあうように心配り、気配りを行っている。		
32		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 以前入所されていた利用者のご家族がボランティアで散髪をしに来て頂いている等、その後の関係も楽しく続けています。		

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握

33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) コミュニケーションを図り、希望や意向の把握に努めている。 (外部評価) 暮らし方シートに生活面での要望を書いてもらっているが、職員の気づきに任されており、共有してケアの向上につなげるまでに至っていない。	※	職員一人ひとりが日々のかかわりの中で聞き取ったり、利用者同士の会話の中から気づいたことなどを気づきノートや日誌に記入し形にしておき、職員全員が話し合って共有し、同じ方向性をもったケアができるように取り組むことが望ましい。
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 一人一人の生活や暮らし方等一緒になって懐かしい日々の事を話し合いながら、楽しい思い出を聞きながら過ごしている。		
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) 一人一人の一日の過ごし方は、それぞれ違った過ごし方なので把握して行っている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) ケアマネ、医療、介護スタッフ、ご家族と連携し、より良い介護計画を作成している。	※	地域でその人らしく暮らしていくために、サービスや介助項目を羅列したものでなく、本人の意向を十分取り入れ、家族や関係者と本人本意で話し合い、職員全員の気づき、意見、要望を反映した介護計画の作成が求められる。
			(外部評価) 職員ごとに担当の利用者を決めており、家族や本人の希望を把握して課題を記入した報告書を参考にしながら介護計画を作成している。		
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) 月2回の処遇会を通してスタッフ間で話し合い、その都度の計画を考えている。		
			(外部評価) 月2回に分けて処遇会議を実施し、療養シート、暮らし方シートを利用して評価検討し、課題順位に従って介護計画の見直しを行っている。今後計画的にセンター方式に切り替える予定である。		
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 本人の様子を記録帳に記入し、実践や、介護計画の見直しに役立てている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) 職員数もいっばいで行っているので、時に要望に応えられない時もあり、少し柔軟性に欠ける事もあり。		
			(外部評価) デイサービス、ショートステイを申請している。本人や家族の要望にそって、病院受診などの送迎、外泊の支援などを実施している。		

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 運営推進会議を2ヶ月に1度行っている。又、防災訓練を行ったり地域ボランティアさんの協力をして頂き支援している。		
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 現在の本人の状況を分析し、それぞれに合った支援の方法を、ご家族やケアマネと連携を取り、皆で考えている。		
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 今のところ具体的な活用例はない。	※	活用できるような準備、対策を練る
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 入所時の係りつけ医の希望あれば柔軟に対応している。 (外部評価) 疾病に関しては、入居前のかかりつけ医を主治医としている。普段の健康管理は協力医療機関の医師の往診が得られる仕組みがあり、定期的には月1回の往診がある。外部評価で訪問した日にも医師と看護師の往診があり、注射、投薬をされていた。利用者は顔馴染みで医師との会話を楽しみにしている。		
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) 精神的に不安定な利用者には近くの神経内科のDrへ相談し治療を受けられるよう支援している。		
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) 各ユニットに看護師がいるので、相談をして健康管理している。		
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 入院時には病院へ様子を見に行ったり病棟看護師へ状態、経過等を聞いて対応している。		

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又 は取組みを期 待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) 出来る事、出来ない事を見極め、係りつけ病院と共にチームとして取り組んでいる。 (外部評価) 運営方針として、重度化や終末期の方には対応できないことを決めており、方針を入居時から家族ともよく話ししており理解を得ている。なお日常の健康管理や急変時には対応できるよう、医療機関と連携している。		
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) 利用者の日常の行動や変化を見逃さないように、見守り、健康管理をする。		
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) 退所してしまうと、あまり情報交換が無いように思われます。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価) 一人一人のプライバシーは考えて、言葉掛け、対応は気をつけている。 (外部評価) 職員は利用者を人生の先輩として対応している。トイレ誘導は他の利用者に気づかれないようさりげなく、車いすからの移動など外から見えないようにカーテンで目隠しするなど工夫をしている。記録などはむやみに見られないよう適切に管理している。	※	きちんと勉強し、利用者の自尊心を傷つけないようにしたい。
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) 本人の希望を聞いて受け入れるように努めているが、説明をしても理解する事が困難な方もいらっしゃるので難しい部分もある。	※	声掛けや、ジェスチャーにも一工夫してみる。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 傾聴し、寄り添いながら、楽に過ごせるようにケアをしているつもりだが、時々、職員側の都合で利用者に負担を掛けている事もあると思われる。 (外部評価) 昼食前の時間であったが、外へ行きたいという利用者の意向にそって、散歩に出かけていた。食事の時間に少し遅れたが、戻ってから機嫌よく皆と食事を摂っていた。食事のペースはそれぞれ違っているが、職員は急いで片付けるのではなく話をしながら寄り添って過ごしていた。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) 全部の人では無いが、一部の人で本人の望む美容院にて希望のパーマを掛けるように行っている。		
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食事の下ごしらえを手伝ってもらったり、献立の希望があればそれを取り入れたりしている。 (外部評価) 家族のこと、献立のこと、食材のこと、季節のことなど一人ひとりの興味を引き出す声かけをしながら、側に寄り添って、食べやすく食器の位置を変えたり、それとなく食べこぼしを片付けたり、楽しく食事ができるよう支援している。		
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) おやつ等はなるべく手作りを心掛けて、工夫しています。		
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) その人に合った排泄パターンを調べ、なるべくトイレで排泄して頂くよう支援している。		
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) ある程度は職員の都合になってしまっている。希望は聞き入れなるべく添うようにしている。 (外部評価) バイタルチェックの結果で入れないこともあるが、比較的スムーズに入浴している。車いすの方が多いが、座位を保つことができる方がほとんどなので、職員二人で介助して、ゆっくり浴槽に入ってもらっている。	※	利用者の希望を取り、入浴を楽しめるようにしたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) 暖かい飲み物等で少し落ち着いてもらい安眠につなげています。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) 全員ではないが、何人かは中庭の草むしり、野菜の水やり、おそうじ、洗濯物をたたんだり楽しんで手伝ってくれている。 (外部評価) 掃除や洗濯物たたみなどできる家事を一緒にしてもらい「ありがとう」と感謝の気持ちを口に出して伝えている。花の世話を楽しみにしている方、将棋が得意な方など、それぞれの楽しみごとの支援をしている。		
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 時々、ある一部の人であるが外に出た時などコーヒ一等を自分で買う。		
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) 天気の良い日は庭へ出て日光浴したり、希望時は周囲の散歩へ出掛けたりしている。 (外部評価) 日常的に近くの神社へ散歩している。近所に商店がないので、買い物に行きたい場合は一緒に車で出かけている。口に出さない方にも何かしらサインがあると認識し、察して外出に誘うなどしている。	※	利用者の希望によって出来るだけ職員が付き添い外出できるようにしたい。
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) 普段はあまり行くことが出来ない。お墓参りなど、その時に対応した支援をしている。		
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 家族に電話はいつでも好きなきに掛けられています。手紙は兄弟等に職員が見守る中で出している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) 本人様の居室へ訪問でき、お話等が充分出来るようになっている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) ベット上の柵など、危ない為にしておきたいが、目配り、気配りをする事で、見守りを重視している。		
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 夜間は、玄関、居室は鍵を掛けているが、朝になるとすべて開放して、日中は出入り自由に行っている。 (外部評価) 鍵は全くかけておらず、外へ出られる居室もある。ベランダの非常階段がオープンになっているので十分注意している。利用者の意向を理解しており、外出には必ず付き添っている。なお、バリアフリーでないところがあちこちにある為、車いすの方は自分で外出するのは難しい。		
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) 職員が利用者の行動を把握し、安全に過ごせるよう、目配り気配りを行っている。		
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 一人一人の状態を見て、気配りしながら取り組んでいる。		
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) 見守り、巡回を行ったり知識を研修で学んだりして状態に応じた事故防止に取り組んでいる。		
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) 職員の応急手当や初期対応の訓練はあまり出来ない。緊急連絡は出来るようになっている。	※	応急手当、心肺蘇生法等の救命訓練を行う。

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけしている	(自己評価) 防災訓練や避難訓練をしているが、まだまだ、改善をしていかなければならない。 (外部評価) 利用者と共に避難訓練をして様々な問題点を把握している。次回は地域の方の協力のもと行う予定にしている。消火栓を自治会で設置してくれる運びにもなっている。	※	不安で動けなくなる利用者への配慮と対応を職員全員で話し合っておくとスムーズに進行できると思われる。特に夜間時については検討を重ね、運営会議を通して地域への協力体制を要望し、地域の連絡網を作成し対応していくことが求められる。
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	(自己評価) 随時、利用者の状態に応じて、一人一人に起こりえるリスクについて家族に説明し、理解をして頂く。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 毎日のバイタルチェックを行い、その日の体調管理を行っている。各ユニットに看護師もおり、職員間での連絡網もはっきりしている。		
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 利用者が何の薬を飲んでいるか、それにはどんな効用があり、副作用があるかも表にしていいつも把握している。		
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 水分補給を促したり、食物繊維の多い物を摂取できるように心掛けている。		
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 出来ない人には職員が行い、出来る人に声掛け見守り、確かめを行っている。		
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 体調に応じて、キザミ食、ミキサー食等適当な形にして、栄養確保に努めている。水分補給は全員充分に行っています。 (外部評価) 利用者の状態によって、刻み食にしたり、好みによって調理の工夫をし、食べやすくして量やバランスに注意している。摂取量については食事、水分共に日誌に記入して管理している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	(自己評価) 基本はうがい、手洗い励行。予防接種や定期健康診断等も行っています。		
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) 台所、器、包丁、まな板の使用前には消毒を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) 建物の構造が少しわかりにくい為、入り口等に案内板を設置し、説明している。		
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) その季節に応じて、壁画や写真を掲示したりして楽しんで頂いている。 (外部評価) 季節の花を飾ったり、写真や手作りの作品を壁に貼るなどして和やかな雰囲気をつくり、それぞれにお気に入りの場所を確保している。		
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 共用空間の中には一人一人の居場所は無く、独立するときは皆さん自分の居室へ戻り、一息ついていく。	※	一人一人居場所が無いが、思い思いに過ごせる工夫もして行きたい。
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 本人が前に作った花や、好みの物を置き、家族写真等飾り、居心地良く過ごしている。 (外部評価) 居室は場所によって作りが違っているが、畳を敷くなど利用者が気に入るように工夫しており、それぞれの利用者ごとの個性的な過ごし方が見受けられる。	※	ドアの上半分が透明ガラスで外から見通せるので、レースを張るなど工夫してプライバシーを確保し、安心して過ごせる居場所とする取組みを期待する。また車いすの方も自分で出入りし易いように手前に引くドアを開閉しやすいものに換えるなどの工夫が求められる。

自己評価	外部評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) 起床時、戸を開放し、空気の入れ替えをしている。30～40分くらいで本人の希望により閉めている居室もある。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 居室は広いが、外部へ出るときに、少し段差が目立ち、手すりが不足している箇所もある。		
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) 利用者の方を理解し、残存機能を活かし、安楽に過ごせるように環境作りをしている。		
87		○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) ベンチや長いすを置いて、花を植えたり、野菜を作ったり、成長を楽しみにしています。草刈や水やりも利用者、職員共同作業で行っています。		

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	(自己 評価) 1 ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんど掴んでいない	意志疎通の難しい利用者に対しての思いの把握はまだまだ考えていく余地はある。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	(自己 評価) 1 毎日ある ②数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	必ず目線を一緒にして、ゆっくりと話せる時間はある。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	(自己 評価) 1 ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	個々のペースをやはり大事にしている。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	(自己 評価) 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	役割を見つけ出す難しさを感じている。一部の方々は生き生きと暮せているとおもいます。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	(自己 評価) 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	利用者の状態により、制限せざるを得ないときはあります。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	(自己 評価) 1 ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	希望の医療機関でなるべく受診をして、安心感を持って頂いている。
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	(自己 評価) 1 ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	出来る限りの要望はその都度、対応させて頂いている。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	(自己 評価) 1 ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない	情報交換を色々な形で行い、ある程度の信頼関係は築けていると思う。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	(自己 評価) 1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 ③たまに 4 ほとんどない	地域の方々はたまに見えられますが、人数的には少ないように思われる。

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	1 大いに増えている (自己 2 少しずつ増えている 評価) 3 あまり増えていない 4 全くいない	自治会やご家族様の協力により、増加傾向である。
98	職員は、活き活きと働いている	1 ほぼ全ての職員が (自己 ②職員の2/3くらいが 評価) 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	理念の笑顔を崩さずに、元気良く働いています。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) ③利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	不満を訴える方もいらっしゃいます。そんなには満足してないように感じます。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての家族等が (自己 ②家族等の2/3くらいが 評価) 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	分からないが、いつも気持ちよく声を掛けて下さるご家族は結構いらっしゃいます。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

いつも笑顔で、利用者から見て、娘であったり、嫁であったり、母親であったり、友人であったり、孫であったりと、とにかく家庭の延長として常に安心して頂けるユニット作りをしています。

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

V.サービスの成果に関する項目

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
- 各自己評価項目について、「取り組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。
- 「取り組みの事実」は必ず記入すること。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名

グループホーム恵須栄

(ユニット名)

寿ユニット

記入者(管理者)

氏 名

芝 博文

評価完了日

19年 7月 15日

(別表第1)

自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) 各ユニットに理念を掲示し、職員の認識を深め、日々のケアに活用している	※	出来る限り、心の余裕を持てるように個人研鑽をして行きたい。
			(外部評価) 設立当初から、家庭的な環境の下で笑顔でその人らしく過ごしてもらうという理念を大切にしているが、地域の中でその人らしく生活していくことをどのように支えていくかということを理念に掲げていない。	※	今まで生活してきた地域との関係をできるだけ継続して生活をしていくにはどのような援助ができるか等、ホームとしての具体的な理念をつくり、実践していくことが求められる。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) ご利用者が、生き生きと、いつも笑顔で健康で過ごせるようにミーティング、カンファレンス、職員の勉強会で話し合い、日々のケアの向上を図っている。	※	更に、身近に理念について触れる機会を増やしていく。
			(外部評価) 地域密着型をめざして、笑顔で円満な日々を生き生きと過ごしてもらえるように取り組んでおり、ミーティングやカンファレンスの機会をとらえて話し合っている。		
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	(自己評価) ご家族には、訪問時や月1回のホーム便りや、推進会議で、又年3回の広報「ほのぼの便り」等で伝えている。		
2. 地域との支えあい					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 出勤時や退社時に挨拶や話で言葉を交わしている。利用者と散歩時地域の方に声掛けし話題づくりをしている。		
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 保育園、小学校の訪問や地域の方の園芸ボランティア等の交流がある。小学校の運動会、地域の盆踊り会にも参加し、他のグループホームとも交流がある。	※	より可能な限り、地域交流をして行きたい。
			(外部評価) 小学校や保育園とは連携しており、お互いに交流できる機会がある。小学校には福祉学習の講師として出かけている。また顔なじみとなった児童が利用者に便りや作品を持って来訪してくれることもある。運営推進会議を通して地域の方とのつながりもできてきており、自治会への加入も検討している。		

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) 様々な研修生の受け入れ、スタッフも自分のレベルに見合った研修を自発的に受け、運営会等を通じて認知症ケアに対しての理解を深めている。		災害時等の高齢被災者の受け入れ等の機能も含めて施設でのサポート体制を様々な角度から見直してみる。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 評価を活かして改善している。	※	評価の意義の理解が職員全てに浸透しないと、うまく現場に活かされないのでは、そこを詰めていく。
			(外部評価) 前回の評価改善項目について、階段に滑り止めを付けたり、来訪者にわかりやすいホームの案内図を掲示するなど具体的に取り組む改善している。自己評価することの意義、外部評価を検討して主体的に取り組んで改善につなげていくまでには至っていない。	※	日々のケアの忙しさに追われがちではあるが、職員全体の意識を統一し、日ごろ見落としやすいサービスの点検の機会とし、良質なケアサービス向上の一つの手立てとし具体化していくことが望ましい。
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 1 職員なので、会議には直接出ていないが、報告書を見て、情報を得ている。	※	会議に参加した家族より、利用者の家族、地域住民の協力を得ての火災訓練の希望有り。計画実施し、共通意識で改善に取り組む必要有り。
			(外部評価) 様々な立場のメンバーで構成されており、職員の勤務体制から避難訓練の状況についてなど、具体的な問題を提供して、意見交換を行い改善につなげようとしている。評価結果を公表し明らかになった課題について改善計画作成にも意見を聞くようにしている。		
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) 市から委託を受けた訪問相談員が月1回来訪有り。現場の実情を見て頂き利用者とも交流し、評価して頂き質向上を図っている。		
			(外部評価) 月1回訪問の相談員さんを介して、市の取り組みやホームとしての要望など情報交換をしている。デイサービス実施の申請をきっかけに窓口との情報交換が頻繁にできるようになった。		
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) 必要時は各ユニットリーダー、ケアマネホーム長とで支援出来るようにしている。	※	より一層、研修等で理解する必要あり。
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 言葉による精神的虐待においては、表面化しづらいので、皆で注意をし合っている。防止に努めている。個人でも介護の新聞やテレビ等での記事に目を通して、実情を把握している。	※	より徹底して防止していく。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 事業所の特性を踏まえて、出来る事と出来ない事をはっきりと伝えるようにしている。医療連携においても、ゆっくりと分かるように説明している。		
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 月1回訪問相談員来訪し、利用者の声を聞いてもらっている。問題点、改善点の指摘あれば職員で話し合い運営に反映させている。		
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	(自己評価) 毎月お手紙を出し状況報告をしている。金銭は事務所で預かっている。何かあると家族の方に相談し、対応する。	※	職員の役職変更や、異動についての報告は管理者より家族へしっかりと報告していく。
			(外部評価) 月1回定期的に必要書類の報告に合わせて、写真などを添えて暮らしぶりを知らせている。また個々に思いを手紙にして伝えている。家族で共に過ごす機会を増やしてもらえよう行事の案内もしている。健康面や外泊に関しては電話での連絡もしている。		
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族訪問時は、声掛けし利用者の状況を伝え、家族の様子もお尋ねしている。必要時は職員間で話し合い、検討している。		
			(外部評価) 運営推進会議のメンバーとして意見を出してもらい運営に活かしている。家族会は年1～2回開催している。来訪時には必ず声かけをして意見を聞き、個別に家族と話す機会をつくっている。		
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 管理者が日々の問題や課題をスタッフよりしっかりと聞き、運営者と連絡を取り、必要あらば緊急ミーティング等を行う機会を作っている。		
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 急な欠員が出た場合には、他ユニットよりの職員で対応せざるを得ない時がある。	※	もう少しゆとりのある職員確保

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 各ユニットの職員を固定化し、顔なじみの職員によるケアを心掛けている。 (外部評価) 2階は2ユニットで夜勤が一人という勤務体制なので、両ユニットの利用者と顔馴染みになっておく必要があり、両ユニット間での職員異動は有効と考えている。利用者にはよく話しており引き継ぎを十分にしている。	※	3ユニットあり、どのユニットでも対応出来る職員でなければならないので、異動により職員のレベルをアップする必要もある。
5. 人材の育成と支援					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 全職員が研修会等の機会に当るように年度初めに年間研修予定を計画し、研修を受けているまた勉強会での報告の場を作っている。 (外部評価) 休みの日に研修会に参加している職員もいるが、勤務体制に余裕がないため研修に参加することが難しく、勉強会での報告に留まっている。	※	非常勤やパートも含む職員個々の質の確保・向上に向けた育成が大切である。それぞれの立場・経験・習熟度などに応じて段階的に力をつけていくことが望ましい。業務に支障が生じないように十分話し合いをして、ホーム全体で年間計画をたてて実施していくことが求められる。
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 月に1度の市の研修会に参加し、地域のGH職員との交流を図り、情報交換及び、共に学んだりしている。 (外部評価) グループホーム連絡協議会に加入している。周辺のホームと行事・レクリエーションなどに利用者と共に参加して交流をしている。ブロックのケアマネジャーがネットワークづくりの呼びかけを始めようとしている。	※	地域の同業者でネットワークを組み、形式的な交流ではなく、勉強会や相互評価などを通じて、日々のサービスや職員育成に役立つ実践的な交流や連携をしていくことが、事業所のみでなく地域の福祉力の向上につながると期待する。
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) 管理者やリーダーといった職員にとってまず身近な者が話を聞き、必要あらば運営者に持ちかけ話し合いの場を作っている。		
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) 常に管理者との情報交換のやりとりをし、職員の取り組み内容を把握し、評価すべき所は、きちんと行い個別面談等でも職員の気持ちの把握に努めている。		

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 事前訪問し、本人の心身状態、本人の思いに向き合い、職員と信頼関係が深まるようにしている。		
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 家族の苦労や、サービスの利用状況など、ゆっくりと話を聞き、家族との信頼関係の構築を図っていく。		
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 早急な対応が必要な相談者には可能な限り柔軟な対応をしている。		
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) 本人様とご家族様には見学をして頂く等の工夫をしている。 (外部評価) 利用開始前に管理者（職員）が自宅を訪問し、その方の暮らしぶりを感じ取りながら、顔を合わせて話しをしている。家族・本人に見学に来てもらって一緒に過ごして少しずつ馴染んでもらうようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 人生の先輩である事を常に意識し、お互いが協同しながら和やかな生活が送れるように支援している。 (外部評価) 職員は常に利用者を頼りにして語りかけ、料理の仕方を教えてもらったり、季節の行事を教えてもらったりしている。感謝の気持ちをこめて「ありがとう」という言葉をかえしている。		
28		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 利用者に問題ある時は家族に電話で状況報告し、家族と連携とりながら問題解決を図る。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) 家族訪問時、利用者の家族への思い、希望などを話し、より良い家族関係となるように努めている。又月1回出す手紙や、面会時を利用して支援している。		
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) ご家族様の面会が主となり、ふるさとドライブ等を行っている。		
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) 個別に話を聞いたり、相談に乗ったりして職員が調整役となっている。職員間で情報共有に努めている。		
32		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 以前のお付き合いを大事にして、気軽に話し合える中であったりしている。	※	相談や、困っている情報等あれば相談や支援につなげて行きたい。

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握

33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 月2回は利用者検討会にて職員間で話し合っている。本人本位で考えている。	※	チームとして同じ方向を見ながらケアを行う。
			(外部評価) 暮らし方シートに生活面での要望を書いてもらっているが、職員の気づきに任されており、共有してケアの向上につなげるまでに至っていない。	※	職員一人ひとりが日々のかかわりの中で聞き取ったり、利用者同士の会話の中から気づいたことなどを気づきノートや日誌に記入し形にしておき、職員全員が話し合っ共有し、同じ方向性をもったケアができるように取り組むことが望ましい。
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入所時の記録より、又本人よりの話や家族訪問時などにお尋ねしている。		
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) バイタルチェック、食事、排尿、排便状況一人一人の生活のリズムを把握するようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) センター方式の一部導入により、反映されてきている。	※	今後も徐々にセンター方式を取り入れていく。
			(外部評価) 職員ごとに担当の利用者を決めており、家族や本人の希望を把握して課題を記入した報告書を参考にしながら介護計画を作成している。	※	地域でその人らしく暮らしていくために、サービスや介助項目を羅列したものでなく、本人の意向を十分取り入れ、家族や関係者と本人本意で話し合い、職員全員の気づき、意見、要望を反映した介護計画の作成が求められる。
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) 本人の状態が急変した時や家族、本人の希望ある時は見直しをしている。		
			(外部評価) 月2回に分けて処遇会議を実施し、療養シート、暮らし方シートを利用して評価検討し、課題順位に従って介護計画の見直しを行っている。今後計画的にセンター方式に切り替える予定である。		
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個別記録へは記入しているが、介護計画の見直しとは連動していない。	※	記録の書き方をもう一工夫してみる。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) 病院受診時の送迎や、付き添い、買い物等の送迎、付き添い、同一敷地内のデイとの交流等を行っている。		
			(外部評価) デイサービス、ショートステイを申請している。本人や家族の要望にそって、病院受診などの送迎、外泊の支援などを実施している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 小学校との交流、防災訓練、誕生会でのボランティア等で一部機関と協力して支援している。		
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 必用あれば対応している。病院の送迎等		
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) あまり活用例が無いように思われる。	※	必要時は協同してゆきたい。
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 基本的には、本人や家族の希望する掛かり付け医となっている。係りつけ医による定期的な訪問診療も実施している。	※	救急時の受け入れ先の病院について検討の余地あり
			(外部評価) 疾病に関しては、入居前のかかりつけ医を主治医としている。普段の健康管理は協力医療機関の医師の往診が得られる仕組みがあり、定期的には月1回の往診がある。外部評価で訪問した日にも医師と看護師の往診があり、注射、投薬をされていた。利用者は顔馴染みで医師との会話を楽しみにしている。		
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) 精神科の先生が近郊のいないので、一部の方は、紹介状を頂き、脳外科の先生や、神経内科の先生に相談している。		
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) 看護職と兼務している職員が各ユニットにおり、状態変化時、主になって対応してもらい、必要な助言も仰いでいる。		
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 入院先に度々訪問、家族や担当Drと情報交換し、円滑に普段の生活に戻れるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) 職員、家族、Drとで慎重な話し合いのもと、以降のケアを考えて本人にとっての最善を考えている。 (外部評価) 運営方針として、重度化や終末期の方には対応できないことを決めており、方針を入居時から家族ともよく話し合っており理解を得ている。なお日常の健康管理や急変時には対応できるよう、医療機関と連携している。	※	看取りや、医療連携の強化
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) 家族との話し合いを密にして、有識者でベストの支援が出来るように取り組んでいる。		
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) ホームに早く慣れてもらえるように、家族と連携をとり、電話で話してもらったり、外泊回数の調整等、慎重に行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	(自己評価) 勉強会や、ミーティング時に意識の向上を図っている。 (外部評価) 職員は利用者を人生の先輩として対応している。トイレ誘導は他の利用者に気づかれないようさりげなく、車いすからの移動など外から見えないようにカーテンで目隠しするなど工夫をしている。記録などはむやみに見られないよう適切に管理している。		
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) 利用者に合わせた声掛けや表情を読み取ったりして、本人が決めやすいように努めている。	※	納得できない人はゆっくり対応し、支援をして、コミュニケーション技法を勉強する。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 買い物や散歩等一人一人の思いや状態に応じて気配りしているが、職員も日々の時間に追われ、職員のペースになっていることもある。 (外部評価) 昼食前の時間であったが、外へ行きたいという利用者の意向にそって、散歩に出かけていた。食事の時間に少し遅れたが、戻ってから機嫌よく皆と食事を摂っていた。食事のペースはそれぞれ違っているが、職員は急いで片付けるのではなく話をしながら寄り添って過ごしていた。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) 理容・美容は本人が希望している店に行き、ホームでも地域ボランティアの方が、散髪に月に1回来訪されているので、そちらでも受け付けている。		
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 野菜の下ごしらえや食器拭き等、職員と鼻歌等を歌いながら楽しく行っている。昼食も職員と一緒に食べ、味付け、好みの食材、料理法を聞き参考にしている。 (外部評価) 家族のこと、献立のこと、食材のこと、季節のことなど一人ひとりの興味を引き出す声かけをしながら、側に寄り添って、食べやすく食器の位置を変えたり、それとなく食べこぼしを片付けたり、楽しく食事ができるよう支援している。		
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) 寿ユニットでは、ふりかけ、うめぼし、みその希望があり、毎日対応している。お茶やコーヒーの温度を個々に合わせている。		
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) 排泄チェック表より、時間や習慣の把握に努めている。食事前後は尿意、便意の意志表意ない方にも気配り、必要時のトイレ誘導を行っている。		
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) 安全の為、入浴できる時間帯は限られてしまうが、出来る限り希望を反映させている。入浴剤も工夫し、温泉気分も楽しめるように工夫している。 (外部評価) バイタルチェックの結果で入れないこともあるが、比較的スムーズに入浴している。車いすの方が多いが、座位を保つことができる方がほとんどなので、職員二人で介助して、ゆっくり浴槽に入ってもらっている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) 利用者個々の就寝リズムが安定するように工夫している。寝付けない人にはお茶を勧めたりしばらく話を聞き眠りを誘うようにしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) 出来そうな仕事をお願いし、「ありがとう」と常に感謝の気持ちを伝え、共に協力している。		
			(外部評価) 掃除や洗濯物たたみなどできる家事を一緒にしてもらい「ありがとう」と感謝の気持ちを口に出して伝えている。花の世話を楽しみにしている方、将棋が得意な方など、それぞれの楽しみごとの支援をしている。		
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 外出時、ハンドバックや財布を持っただき、買い物や支払いが出来るように支援している。		
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) 気分や希望に応じ、散歩に行ったり、他ユニットを訪問したりしている。		
			(外部評価) 日常的に近くの神社へ散歩している。近所に商店がないので、買い物に行きたい場合は一緒に車で出かけている。口に出さない方にも何かしらサインがあると認識し、察して外出に誘うなどしている。		
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) 地域行事や他施設での行事がある時には家族にも電話等にて連絡し、参加をお願いしている。		
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 本人希望される時や情緒不安定な時、電話対応をお願いしている。あまり訪問できないご家族様にははがきや、お手紙のお願いをしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) 面会のお客様には、居室へ案内し、お話ししやすい環境を作る。お茶を勧めて、今の状況等お互いが話しやすい雰囲気作りに努めている。		
(4)安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 月1回の勉強会、ミーティング、日々の申し送り等で、職員の共通認識を図っている。		
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 利用者が外出しそうな様子あれば、さりげなく声掛けをしたり、一緒についていく等、安全面に配慮して、自由な暮らしを支えるようにしている。 (外部評価) 鍵は全くかけておらず、外へ出られる居室もある。ベランダの非常階段がオープンになっているので十分注意している。利用者の意向を理解しており、外出には必ず付き添っている。なお、バリアフリーでないところがあちこちにある為、車いすの方は自分で外出するのは難しい。		
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) 日中は出勤職員で連携をとり、さりげない状況把握に努めている。夜間は1時間ごとに巡回、利用者の動きに柔軟な対応が出来るようにしている。		
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 利用者の状況変化によって、物品の保管・管理を促す等、ケースに応じた対応をしている。		
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) ヒヤリハットの記録をもとに職員間での共通認識を確認している。事故発生時は報告書を作成し職員間で検討し、ご家族への報告し再発予防に努めている。		
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) 診療記録の書き方を改善し、救急搬送時や、病院受診時DRに手早く説明できるようにしている。	※	寿ユニットでセンター方式を使い、試験的に実施全ユニットにも浸透させて行きたい。

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけしている	(自己評価) 緊急時連絡網の作成等、避難方法も勉強会にて随時話し合っている。 (外部評価) 利用者と共に避難訓練をして様々な問題点を把握している。次回は地域の方の協力のもと行う予定にしている。消火栓を自治会で設置してくれる運びにもなっている。	※	地域の協力を仰ぎ、地域レベルでの訓練を実施していく。
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	(自己評価) ケアプランの見直し時や家族訪問時、状況を話し、状態低下している部分等含めて、起こりうるリスクを考えている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 毎日ほぼ同じ時間にバイタルチェックし異常ある時は看護職に報告、助言得て対応している。		
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) センター方式の私の療養シート導入し職員、シート記入に関り、病名や薬の目的等理解を深めている。		
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 歩行訓練や水分補給と食物繊維がある物を摂取して頂いてあるが、充分ではない。		
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 一人一人の力に応じた、口腔ケアを実施している。		
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事量は、朝昼夕と記録している。水分は午前、午後のおやつ時と、入浴後等は特に注意している。体調不良者には状況に応じて対応している。 (外部評価) 利用者の状態によって、刻み食にしたり、好みによって調理の工夫をし、食べやすくして量やバランスに注意している。摂取量については食事、水分共に日誌に記入して管理している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	(自己評価) 感染症の流行や対策について研修会等に参加し、予防を図っている。インフルエンザについては、予防接種をしている。		
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) まな板や布巾の漂白、調理器具、水周りのこまめな清掃、冷蔵庫や冷凍庫の食材残りの点検をこまめに行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) 玄関脇にベンチ設置し、誰でも休めるようにしている。2階ユニットや事務所へも1回玄関脇に見取り図を掲示して解りやすくしている。		
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 台所の様子は利用者から見えるようになっていて、食欲増進につながっている。四季折々の花をテーブル、洗面所、玄関入口に飾り、和やかな雰囲気となるようにしている。 (外部評価) 季節の花を飾ったり、写真や手作りの作品を壁に貼るなどして和やかな雰囲気をつくり、それぞれにお気に入りの場所を確保している。		
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 気の合う利用者と食事が出来るように工夫している。ホールのソファの座る場所も、ほぼ決めて安心して過ごせるようにしている利用者もいらっしやる。		
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 入所される前に使っていたもの等を入所時にそのまま持ってきて使用して頂いている。 (外部評価) 居室は場所によってつくりが違っているが、畳を敷くなど利用者が気に入るように工夫しており、それぞれの利用者ごとの個性的な過ごし方が見受けられる。	※	ドアの上半分が透明ガラスで外から見通せるので、レースを張るなど工夫してプライバシーを確保し、安心して過ごせる居場所とする取組みを期待する。また車いすの方も自分で出入りし易いように手前に引くドアを開閉しやすいものに換えるなどの工夫が求められる。

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) 朝の毎日の清掃除、いっせいに窓を開放して空気の入替えをしている。トイレは換気扇と消臭剤併用で悪臭予防をしている。冷暖房等で温度調整は行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 廊下、トイレ、浴室に転倒予防の手すりを設置している。2階から1階は移動エレベーターあり。		
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) 自室入り口には、名前の表札有り、トイレや浴室も記入したカードを掛けている。		
87		○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) 玄関脇にベンチあり、屋外に出た時に休めるようにしている。庭ではゲームや食事等楽しんでもらっています。		

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	(自己 評価) 1 ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんど掴んでいない	コミュニケーションが取れない利用者については、評価が分かれるが、おおむね掴めている。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	(自己 評価) 1 毎日ある 2 数日に1回程度ある ③たまにある 4 ほとんどない	毎日あるにはあるが、行動障害等により付き添いが必要な特定の利用者の方が対象であり、ユニット全体では③程度と考える。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	(自己 評価) 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	移動介助を必要とされる方が多くなり、職員の数や能力に応じて評価が変わるが、平均すると1/3くらいと考える。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	(自己 評価) 1 ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	支援計画そのものは、よく出来ており、計画通り実施できれば笑顔見られる。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	(自己 評価) 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	いつも出られる方は決まっており、歩行に付き添い必要の為、1対1でしか行けず、行けない方がほぼ決まってきている。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている	(自己 評価) 1 ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	医療に対して、こだわりがある利用者は、一部不安を訴えるときあるが、おおむね不安なく過ごしている。
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	(自己 評価) 1 ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	特に訴えの多い利用者に対しては、その全てに応えられてはいないが、おおよそ対応している。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができていく	(自己 評価) 1 ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない	おおよそご家族様とは協力し合い信頼関係を築いている。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	(自己 評価) 1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 ③たまに 4 ほとんどない	誕生会（月1回）や近くの小学校との交流会等によりたまに訪ねてこられる。

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	1 大いに増えている (自己 ②少しずつ増えている 評価) 3 あまり増えていない 4 全くいない	地域住民や、自治会等少しずつ増えている。
98	職員は、活き活きと働けている	1 ほぼ全ての職員が (自己 2 職員の2/3くらいが 評価) ③職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	利用者のADL低下による身体介護量の増加、洗濯等の家事の増加に加え、行動障害のある方へのマンツーマンの見守り等でバタバタとしている。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) ③利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	帰宅願望の強い利用者の方々は満足されていない。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての家族等が (自己 ②家族等の2/3くらいが 評価) 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	大変好評を頂いていると感じています。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

頭の中で、自己評価の内容・利用者の希望・家族の希望と色々な事が分かっているが、いざ実践となると出来ていない事が自他共に多々ある。チーム内での日々の実践においてケアに対するアセスメントの一致は、シフト制の現場では永久の課題であろう。職員間での意見の誤差は必ず生じるが、自分の意見もしっかりと持ち、皆で前向きに話し、出来る限り最小限の誤差で抑えられるよう皆で頑張っている。